

住民主体で挑む限界団地 ～ドリームハイツの試み～



深谷台地域運営協議会

事務局

松本和子

2016. 11. 29

ドリームハイツの概要

1972 ~ 74年 横浜市戸塚区の西部に
県/市住宅供給公社が分譲した高層集合住宅

23棟 2,300世帯

入居時 8,000人

2010年 5,000人

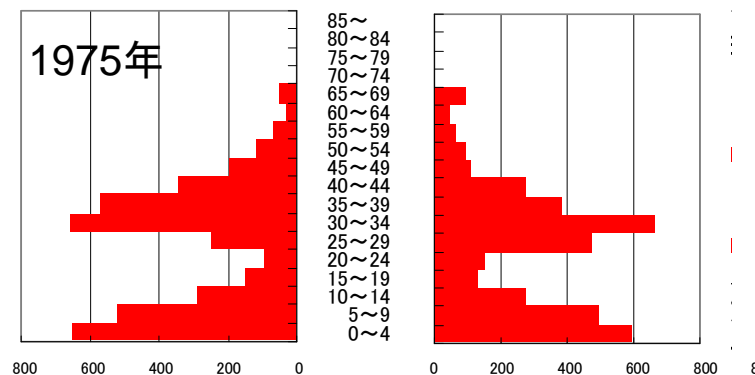
2016年 4,670人

(1人暮らし 500世帯以上)

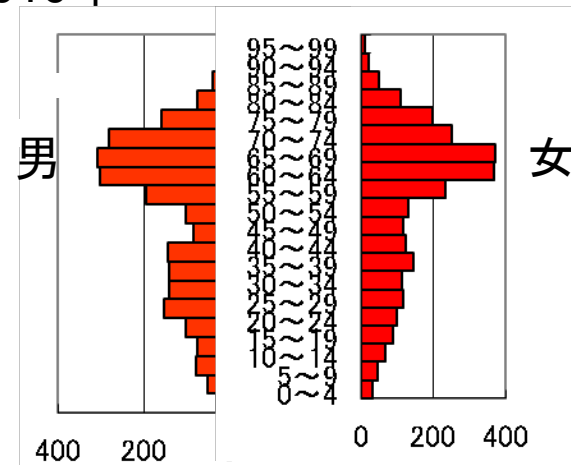
高齢化率

2010年 38%

2016年 49%



2010年



はじまりは子ども ～夫々小さな拠点に～

緑の環境と部屋の広さだけで移り住んだハイツの地域には、何もなかった。

店舗、医療施設はなく、公的施設は小学校と幼稚園が一園のみ。

交通手段もバスのみで、JR戸塚駅まで渋滞で1時間かかるときも。

モノレールが通るといふ触れ込みだったがそれも挫折。

30歳前後で元気だった住民は、一つ一つ幼稚園を、保育園を学童保育を創っていった。その後40年続くまちづくりの始まりだった。



【すぎのこ会】



【苗場保育園】



【ぽっぽの家】

高齢者・障がい者に対象を広げる ～夫々小さな拠点に～

- 26年前「食事サービス」
- 22年前家事介護の支援団体
 ➡介護保険事業者に
 （NPO法人ふれあいドリーム）
- 20年前高齢者・障がい者の交流サロン
 （NPO法人いこいの家夢（むー）みん）
- 10年前コミュニティカフェ
 （NPO法人ふらっとステーション・ドリーム）
- 障がい児の放課後支援団体
 障がい者の作業所設置



地域給食の会



夢みん



ふらっと

住民自治が育ち ドリームランド跡地の環境を守る

ドリームハイツに隣接した遊園地
閉鎖（2002年）の跡地を中古車
販売会社が購入。

しかし住民挙げての反対運動で、
野球場、公園、霊園となる。
さらに薬科大学も来て
素晴らしい住環境となった。



俣野公園



横浜薬科大学

団体連携の下地も育つ

- ドリームハイツ地域のつどい

子ども対象の活動が始まり
10年後から、ネットワークづくりが
始まった。 ➡ **プレイパークへ**



- 福祉連絡会

給食の会、ふれあい、夢みん、ふらっと、えんの5団体が
ネットワークを組み、講座やアンケートなど実施。

- 3団体が連携してふらっとステーションを立ち上げる

地域給食の会、夢みん、ふれあいが新たなカフェ立ち上げ
のために連携する。

2007 **ドリームハイツ**地域運営協議会発足

2011 **深谷台小学校**エリアに拡大

- ドリームハイツ地域運営協議会

横浜市の意向と地域の要請が一致し、2自治会と4NPO、2任意団体と区が同テーブルに



- 深谷台地域運営協議会

3自治会と小学校、4NPOなど16団体に広がる

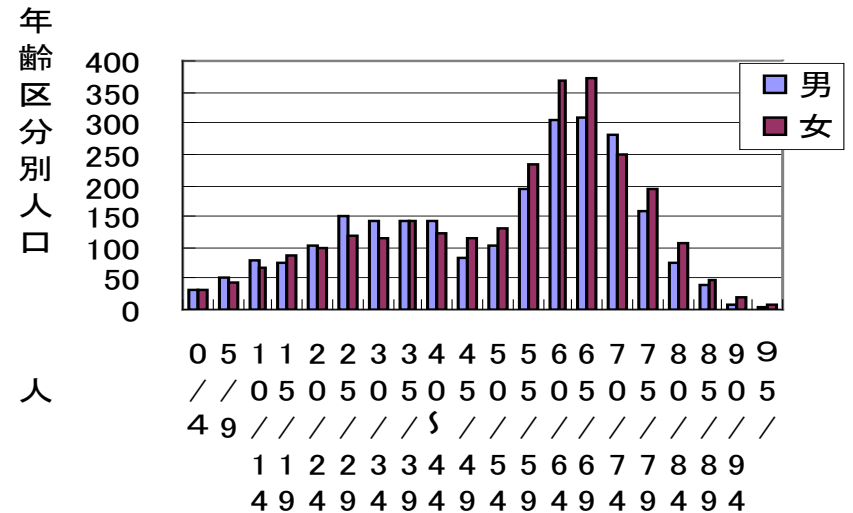


協議会でまず取り組んだこと

住民アンケート2007

- 住民主体の設問づくり
- 行政、学研、専門家との協働事業
- 回収率 95.5%
- 結果を各団体が活かす、新たな団体が生まれるなどまちづくりは大きくステップアップ

平成22年：年齢区分別男女別人口構成
(総数=5,149 男=2,477 女=2,672)



調査活動と実践を結びつけながら

◆調査（住民アンケート）3回

- ① 2自治会住民対象に（07年）
- ② 子育て世代を対象に（12年）
- ③ 3自治会住民対象に（15年）

★ 提案、相談、報告、
課題共有は協議会で

★ 実践は、自治会、福祉部会、
見守りネットセンター、
地子ネット、各団体で



アンケートに見るニーズ変化

◆ 公共交通機関(96年)

→ 通勤者減

◆ スーパー設置(02年)

◆ 1人暮らしの見守り(07年)

→ 見守りネットセンター設置

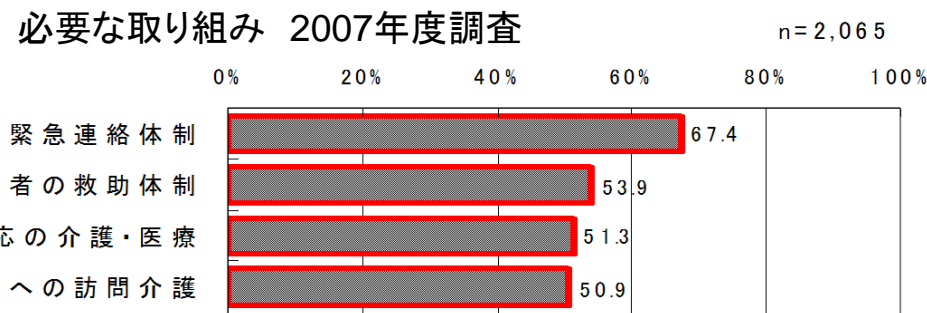
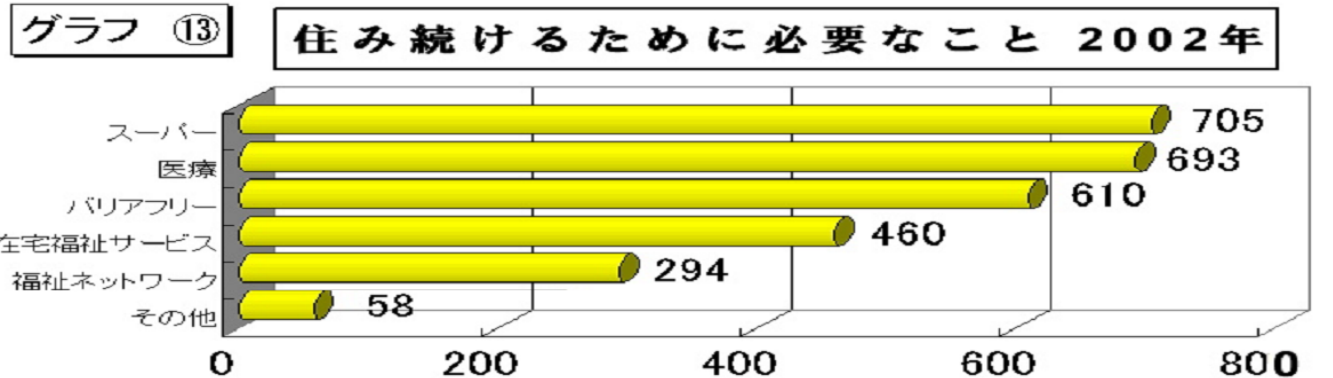
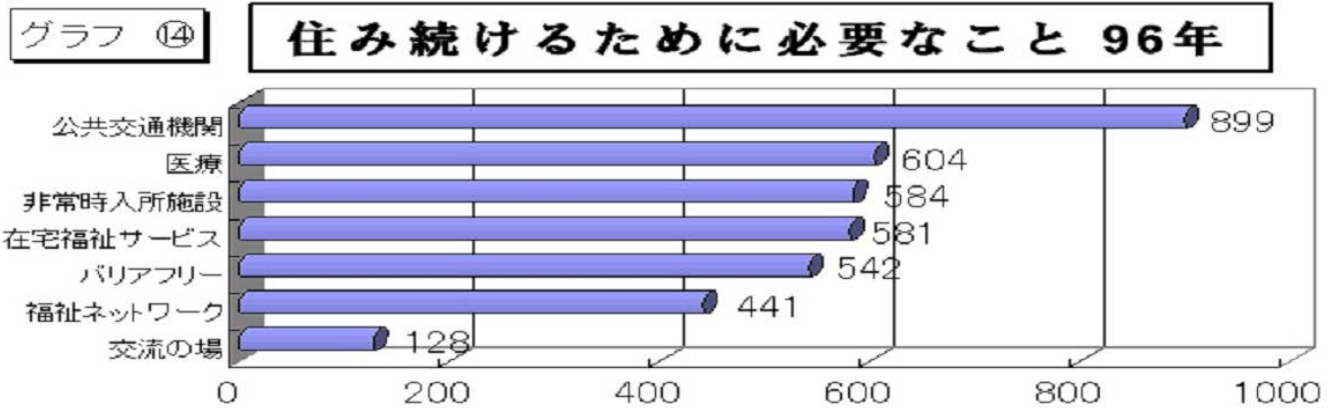
◆ 困りごと:

災害時の取り組み(15年)

→ 情報提供

◆ 同調査で多くの協力者の申し出があった。

◆ 子育て世代(12年)は「小中学生の居場所」を望む



協議会で実践できたこと

- 学校内に地域交流室設置
- 見守りネットセンター設置
- アフタースクール開設
- ボランティアバンクえん開設
- 地域広報紙「エリマネニュース」隔月発行、3000部
- 地域全体での見守り、防災、福祉講座等の取り組みが進む



アフタースクール



ボランティアバンクえん

欠かせない外からの支援

- 「70歳からの未来塾」の講師
- 様々な講師（車いす、認知症医療、薬科大、終活ほか）
- 組織統合に向けたワークショップでのファシリテータ
- 中間支援組織（市民セクターよこはま、YCCN）など
- その他、様々な専門家、大学、行政との連携



人材と資金～地域でお金が回る？

- 担い手の高齢化 → 福祉3団体の統合
- 退職した人をターゲットに誘う
- 制度になると若い人が集まる
(子育て支援の団体、障がい児の放課後等デイサービス事業など)
- 世代交流の機会を活発に
(ぽっぽの家と高齢者・夢みんで将棋・世界のおもちゃで遊ぶ・プレイパークなど)
- 現在、夢みん・ふらっと・ボランティアバンクは介護保険改定による総合事業の受け皿を目指している。家賃補助やコーディネート費の補助金で安定する。
- 地域でお金が回る仕組みとは？

行政との関係、役割は 時・場・状況により異なる

- ハイツのまちづくり初期は支援ゼロ
- 行政も市民も変わり、協働事業が増える
- 制度になると資金は安定
- 協議会では、情報が最強の力
- 横浜市の夢ファンドのような資金とファシリテータ派遣
- 中間支援組織を通じた協働関係で政策提案



さらに前へ



より安心して、尊厳をもって

住み続けられる地域を 目指して

- 身近な相談、見守り、個人情報管理、介護・看護、日常生活支援、災害時の支援などの機能を持つ**総合支援施設**を、団体の拠点老朽化、家賃の負担解決のために、**複合施設**を...の声がまとまる。
- 協議会の中の実行部隊(福祉連絡会)で、力を合わせて取り組むことが決まった。
- 明るく安心な限界団地へ、

あらゆる人の知恵を求む！

